

http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/

# なにわ路情

野宿者ジャーナル  
3号(隔月刊)

## 「なにわ路情」がめざすもの

- 野宿生活者の生活や声をとりあげ、ともに考える新聞です。
- 脱野宿のきっかけとなるような紙面づくりを心がけています。
- 今までのこと、そしてこれからのこと、いっしょに考えていきたいと思います。

50代のAさんが淀川の河川敷で野宿生活を始めたのは、昨年の春ごろからでした。現在はアルミ缶や銅線、古本回収などが収入源ですが、アルミ缶回収は競争が激しいため、ほぼ

毎日、古本回収に出かけています。ある程度冊数を集めてから古本屋に売りに行くため、毎日収入があるわけではありません。

そんなAさんはこれまで野宿問題に関する情報提供はほとんど受けたことがなく、『なにわ路情』を手渡すと興味深そうに受け取ってくれました。そして、新聞の記事を何度も繰り返し読み、なかでも特に自立支援センターに関する記事に興味をひかれたそうです。というのも、Aさんは「もう一度はたらかしたい」との思いが強く、「昨年の秋ごろに一度自立支援センターへの入所を勧められたけれど、その後センターについての情報がまったく得られず、入所するまでには至らなかつた」からでした。

「自分から動かないと何も変わらないのはわかっているのだが、以前はそう考え、独り悩むことも多かったAさんでしたが、技能講習やセンター入所者のインタビュー記事などを読んで「自分も何とかしなければいけない」と思い、改めて自立支援センター入所の気持ちを持強くなりました。

別れ際には「近いうちに福祉事務所へ行って相談してきます。それで巡回相談員さんを紹介してもらいます」と力強く語りました。

そして次に訪問したとき、「福祉事務所へ行って巡回相談員さんに連絡してもらいましたよ。自立支



## 紙面

1 「もう一度働くために行動したよ」	3 ホームレス自立支援法 第2段階へ
2 「仕事をつくれ！」の願い届くまで	4 こちら路上医療相談室
2 体験いかし仲間の応援へ	4 ●編集後記●「なにわ路情」はここで配ってます
3 日雇い・野宿の仲間を介護して	4 「カマヤんと八起さん」ありむら潜

## 発行元 NPO元気百倍ネット なにわ路情編集局

〒530-8090 大阪中央郵便局留  
NPO元気百倍ネット  
「なにわ路情編集局」係  
tel 06-4397-9305  
e-mail rojoinfo@zap.att.ne.jp  
http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/

## もう一度働くために 行動したよ

路上新聞の配布と対話でうれしい報告

『なにわ路情』も今号で創刊3号目を迎えました。新聞は創刊準備号を含めてこれまで合計3回、大阪市内の公園や河川敷沿いで配布しています。配布には大学生も協力しています。その一人佛教大学社会学部の横田潤一さんは主に河川敷の読者を担当し、配布活動を通じて十数名の野宿生活者のみなさんと対話が続いています。以下にご紹介するのは、彼がその中で聞いたAさんの『なにわ路情』への感想と、Bさんの体験談のレポートです。

自立支援センターの入所手続き

「自分から動かないと何も変わらないのはわかっているのだが、以前はそう考え、独り悩むことも多かったAさんでしたが、技能講習やセンター入所者のインタビュー記事などを読んで「自分も何とかしなければいけない」と思い、改めて自立支援センター入所の気持ちを持強くなりました。

別れ際には「近いうちに福祉事務所へ行って相談してきます。それで巡回相談員さんを紹介してもらいます」と力強く語りました。

そして次に訪問したとき、「福祉事務所へ行って巡回相談員さんに連絡してもらいましたよ。自立支

ただ、少し残念なのはもっと早く自立支援センターの詳しい情報が伝わってほしいと思わざるを得ないことです。Aさんも「本当だったら以前に自立支援センターのことを聞いたときに入所できたらかよかったです。」と振り返ります。

野宿生活者のみなさんが日々の生活の中で考えていること、体験を通じて矛盾を感じておられることがありましたら、どんなご意見をください。そうした声が国や自治体への要望や提案につながります。みなさん一人ひとりの率直な言葉は『なにわ路情』スタッフの「かて」でもあり

## こちら路上医療相談室

やすだせいいちろう (医師・ききりの会メンバー)

## 第4回 熱中症にご用心!



まだまだ暑い日が続きますが、皆さんいかがお過ごしですか？

夏のこの季節は冬のように凍死するような危険はありませんが、逆に暑さのために体力が消耗したり、「熱中症」にかかる危険があります。毎年、残暑のきつこの時期を中心に熱中症で亡くなるかたが全国で後を絶ちません。とりわけ野宿生活者の場合は、十分な水分を取ったり冷房で涼をとったりしている状況にもかかわらず、普通のかたより熱中症にかかりやすい状況にあります。蒸し暑いテントでの生活や炎天下での缶詰めなどでは十分注意が必

要です。

熱中症とは？

蒸し暑い環境のなかで、身体の中に熱がこもって体温が下げられなくなり、ひどい時には死に至るというこわい病気です。熱中症は夏の暑い時期に、屋外で仕事やスポーツなどで身体を動かしたときに発生するのが普通ですが、一年中いつの時期でも発生しますし、しめきつた屋内でじっとしているだけでも発生することがあります。

軽い症状としては、足などにけいれんが生じたり、脈や呼吸の乱れ、めまい、頭痛、吐き気などがおこります。ひどくなると

5分ごとに少量ずつ摂取する方が効果的です。服装は、できれば帽子をかぶり、明るい服装がいいかと思えます。重い自転車を押すなどの重労働の場合は、無理をせずに定期的に日陰で休息してください。

熱中症は、気温が高いほど、湿度が高いほど発生しやすいと言われています。ですから、前日に雨が降って湿度の高い晴れの日は、いつもより多めに休みをとりながら仕事をしてください。日中に日陰で休息する場合は、テントの中よりも風通しのよい木陰などの方が安全かもしれません。

熱中症にかかったら？

みなさん自身が熱中症にかかったり、みなさんの周囲の友人が熱中症の症状になった場合、すぐに休んでください。そして、できるだけ早く身体を冷やしてあげてください。木陰などの場所に移動さ



今んこは理は複雑なのだ

せて、服装をゆるめて身体を冷やします。首、脇の下、足の付け根に太い動脈が走っていますからそこに冷たいものを押し当てます。うちわなどで風を送ってあげるのも効果的です。意識がしっかりしていれば水分を補給させてください。意識がない場合は危険な状態ですからすぐに救急車を呼んでください。救急車を呼ぶ場合でも、熱中症の患者さんを助けられるかどうかは、最初の20分以内に体温を下げてあげるかが勝負です。救急車が到着するまで身体を冷やしてあげてください。

残暑が厳しいおりですが、みなさんお身体にはくれぐれも気をつけてください。

「なにわ路情」は、野宿生活者に直接手渡すことを原則としています。右図にその配布場所を示しています。大阪城公園では、公園内のテントだけでなく、シエルトにも置かせてもらっています。また一部のテントにも常備するようにしています。公園ではほかに、鶴公園や、生玉公園、八尾市にもまたがる

久宝寺緑地や堺市の大泉緑地や大仙公園でも配っています。中ノ島や大川ぞいの毛馬・桜宮公園などの河川敷公園や、淀川・神崎川河川敷でも、手渡ししています。その様子は一面で紹介しています。

あいりん/釜ヶ崎方面には、今のところは拠点施設に常備しています。尼崎市や京都市でも、関係

団体にまともて配布しています。ボランティアで公園などで配布していただけたら希望がございましたら、編集局までお知らせください。送料は編集局負担でお送りいたします。

赤線は野宿生活者への直接配布、青線は過行人配布、紫線は福祉施設への配布、その他は転送などによる留め置きあり

## 「なにわ路情」はここで配ってます

### 『なにわ路情』の配布箇所



# 「仕事をつくれー」の願い届くまで 市役所前の野営闘争なぜ続く?



(野営テントで語る本田さん)

大阪・中之島の市役所前遊歩道で、釜ヶ崎反失業連絡会(反失連)が野営闘争を続けています。この場所ですでに7ヶ月以上、昨年9月下旬の府庁前で始まった時点から数えると1年近くにわたる行動です。要求目標には「55歳未満の特別就労事業」の実現を掲げつつ、当面の要求として緊急避難宿泊所(シェルター)や自立支援センターの増設も求めています。

反失連の野営テントで宿泊しているのは約300人。剣先公園などを含めると中之島一帯では合計500人近くが野宿している勘定です。野営に伴い毎日3回行

われる炊き出しでは1回約800食分が用意され、市内各地から食事を求める人々が集まっています。反失連がその人たち約500人に直前の仕事と収入などを聞いたところ、日雇いは287人(平均53歳)、正社員は139人(同51.9歳)で、それぞれの現在の平均月収は働いていた当時の117%、6.5%に過ぎません。

反失連の共同代表である本田哲郎さん(60)は、「野宿者の望みは社会に貢献しながら生きていくこと、つまり仕事をすることです。万難を排して行政は就労の機会をつくるべきだ」というのが私たちの運動

目標ですが、その実現を待つだけでなく、野宿しなくてはならない緊急の対策も求めています。キタ地域にシェルターや自立支援センターを増やして、路上の仲間が利用できるようにしてほしいと訴えています」と話します。

中之島の野営地には、炊事棟と並んでNPO釜ヶ崎支援機構によるアルミ缶の買い取り中継所も設置され、1日平均2トンの量が扱われています。4月から医師、看護師らの協力で月1回の健康相談も始まりました。

現地では京阪・中之島新線の工事が一部で始まっています。反失連として工事は拒まず、着工を認めています。立ち退きは容認せず、何らかの代替地を周辺に求める考えです。「ここから釜ヶ崎にもどっても、中之島の仲間が三角公園のシェルターに入れぬ余地はありません。本田さんはそう言うって、野営闘争の終わりが近づきつつあるとの見方を笑って否定しました。

大阪城公園内東側で、野宿生活者たちと相談テントを立て、いろいろな問題に「会費の徴収」「会代表の決定」などの議題を検討し、会を作るみんなの熱意と期待が伝わり興味深い会議でした。とくに進行役の越前さんと会員さんとのやりとりは手に汗握るバトルものであり、この中で意見交換では、闇金融の違法性や、お互い金銭の貸借を止めること、当会議の会費の使い方使われ方、NHKの受信料や水道料金については福祉補助が適応されるなどの項目が話され、その後、世話人数名が決まりました。

この後フリーターキングで注目したことは、会員たちが提案したテーマがたいへん新鮮だったことです。その1つは(ポランティア・ヘルパー)の募集です。2

「会費の徴収」「会代表の決定」などの議題を検討し、会を作るみんなの熱意と期待が伝わり興味深い会議でした。とくに進行役の越前さんと会員さんとのやりとりは手に汗握るバトルものであり、この中で意見交換では、闇金融の違法性や、お互い金銭の貸借を止めること、当会議の会費の使い方使われ方、NHKの受信料や水道料金については福祉補助が適応されるなどの項目が話され、その後、世話人数名が決まりました。

この後フリーターキングで注目したことは、会員たちが提案したテーマがたいへん新鮮だったことです。その1つは(ポランティア・ヘルパー)の募集です。2

つ目は(公園夜回りボランティア)を提案されたことです。①については、身体にハンディがある生活保護仲間に対し、買物や食事づくり、介助のヘルパーを主体的に支援しようという提案です。②は週1回大阪城公園で今も野宿する人たちを夜間に訪ねてみようという会員たちの試みでした。①・②とも会員たち自身がこれまで社会的支援の受手であったことに対し、これからは何らかの活動で還元していこうとする姿勢と、何よりも優しい人間へのまなざしが背後に存在しているという感動をもらったことでした。

「峠の会」の議事進行は必ずしもスムーズに進んだわけでは

# 体験いかし 仲間の応援へ

## 大阪城公園の 元野宿生活者が「峠の会」



ありません。問題があつちへいったりこつちへきたりで收拾がつかないようにも見えました。『よろず相談』主宰者の森石・門戸さんたちはニコニコ見守るだけで、会議の方向ややり方に口を出さない姿勢です。つまり「峠の会」は、『釜ヶ崎医療連絡会議』や「大阪城よろず相談」を通じ居宅保護に移った仲間が主体的に集ったグループであり、彼等の自覚を大いに信じての見守りであったのだと理解できます。この点でもこの会に大変好感を抱いた理由です。

このほか会報作りや会の規約作りについても論議され、また『東成・まちの探検隊』という地域交流グループがこれからの親睦のために参加していました。これらについても紹介したいのですが紙面が尽きてしまいました。今後を「峠」とはお付き合いをしようと考えていますので、またの機会にお知らせを約束いたします。(さ)

# 日雇い・野宿の仲間を介護して NHK放映「もう野宿にはもどさない」の現場と舞台裏



NHK総合、2003年4月11日  
関西クロスアップ  
19時30分~19時55分に放映。  
翌日再放送。

前回は、4月11日にNHKで放映された、NPO元気百倍ネットの介護事業でヘルパーとして活躍する元野宿生活者の笠川さん、元日雇労働者の間さんへの、放映後日談を掲載しました。今回もヘルパーとしてこの悩みや思いが引き続き語られます。

笠川さん テレビでもうつつたけど、ぼくのお客さんになる予定の人、3畳の部屋でホヤだしたんですわ。入った病院で、肺に煙吸うてるんで、結核やと

診断されても、それがどうも間違いで、病院で結核の薬うって、きついもんなやからちよっとは回復したけど、もう亡くなってしまった。75歳や。まあその前に体力なかったからね。

ゴキブリと一緒に生活している感じやったわ。うちで世話するかどうかする笠川さん見てきてくれへんかって言われた、そう最初行った時、こらあかんでて。

ほんまにどないして介護したらええもんか悩んだわ。他のヘルパーもしん

どい人を抱えているし、本人はほとんど体、動けへんしなあ。路上からあがってきた時なんかもうほとんど体こわしてるからね。

僕は1回キタでね、1人助けて、病院へつれていったけど、もうガンやったんや。路上でこの異常があるいうたらまずいもん。そんなやつぱり助けたさんとあかん。ずつと缶集めしとってね、しんどなってきた時やった。でも入院して1年もてへんかったなあ。

でも、間ちゃんなあ。薬つけてなあ、病院

はええかもしれんけど、やっぱり酒もある程度飲んでもええのちゃうかな。肝臓わるかったYさんもな、酒飲んだら血圧が正常になるんや。それで魚好きなんや。肝臓値がよくなったんや。薬飲んでないんや。『良くなってね』って言うわね。薬だけちゃうねん。やっぱ食べることもやねん。

間さん まーね、いいことやね。あと気持ちとね。

笠 それとねえ。介護するとき、4畳半ほしいわなあ。違つわやっぱり。もの置いてたつてやっぱり違つ。やりやすいね。

間 奥行きが全然ないから…。

笠 今4畳半に住んでるけど、テレビ置いて、こう座れるもん。3畳やったら、掃除なんか、こんな格好でかがまんとできへん。あたってしまっちゃんや。

釜釜介護って言わ

れるけど、僕もヘルパーさんとしてでなくて、最初はニイチャンどおしのつきあいではじまる。それを介護でどういう具合にひっぱってゆか、それがヘルパーって感じやもんね。はいここまでって訳にはいかんもん。これで一時間で終わりでできてへんもん。プライベートなことばかして。

それと僕らみたいな経歴でもっとヘルパーの資格取ってなあかんのやけどな。一般のヘルパーステーションが、とにかくそこにもある、あそこにもある100メートルおきぐらいにある感じやもん。

僕ら、資格とっても次の就職がない。なかなかつてくれへんもん。今もここあったから来れなかつたら大淀寮にまだはいってるかもわからん。

間 ぼくもまだガードマンしてると思うな。

「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」に基づく基本方針(案)が、7月3日に厚生労働省から発表されました。7月24日までにパブリックコメント意見を寄せて欲しいということでした。役所や福祉事務所で無料配布しているわけでもないのに、ホームページを見れない人多くみんさんがこの案文に接することはできません。結構長い文章でしたが、全国調査(本年1、2月)↓国の基本方針(現段階 7月31日に基本方針告示)↓各自自治体は実施計画策定(9月以降)という段取りで、いま第二段階目になりかけたことになりました。

この基本方針(案)次第で、府や市の実施計画の内容に影響が及びますので、いろんなところからの意見があげられたと思われまます。いくつかのポイントを紹介してみたいと思います。

ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法

「ホームレスの人権尊重や尊厳の確保、それにたいする啓発活動も、はつきりと書かれました。一方で公共施設の適正な利用については、結局は排除としか受けとれない文面も見受けられ、公共施設の管理者もまずはホームレスの自立

を支援するという観点から、努力や創意工夫は言われるもの、これを「やります」との明文がないので、どれだけ実現されるか不安視されます。とはいえ今後検討されるであろう内容として、次のようなものが期待されます。

就労では、「通所による自立支援センター利用」「技能講習や職業訓練の実施」「都市雑業的な求人情報の強化」。

居住では、「市営住宅の単身入居や優先入居」「民間住宅の無料低額宿所への転用」「緊急一時避難所にアセスメント機能をつける」「シェルター+自立支援センター的な中間施設の導入」「ダンポールなどで居住するホームレスに対する緊急支援」。

医療では、「巡回検診や健康相談の実施」「一般市民検診の受診」「無料低額診療事業の積極的活用」。